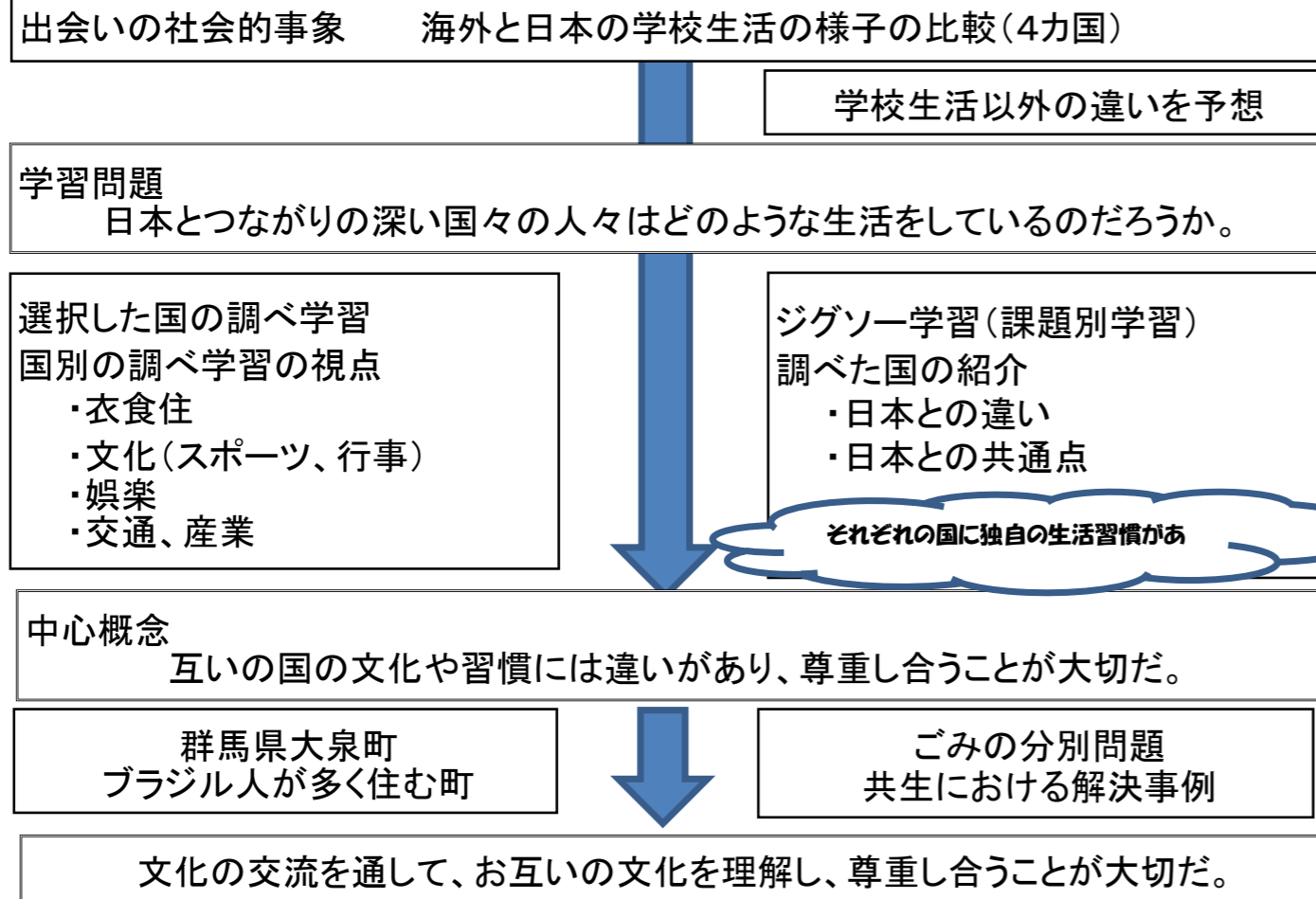


実践テーマ「よりよい社会をつくる子供の育成」

～日本とつながりの深い国々の実践 国際交流の果たす役割を考える学習を通して～

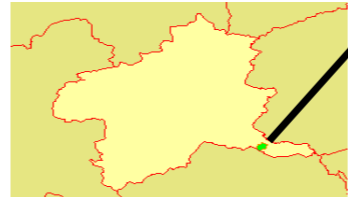
◎学習展開




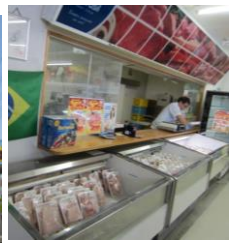
◎資料 学校生活の違い(つかむ段階)

<p>アメリカ</p>  <p>小学校が6年間、中学校が2年間、高校が4年間が一般的。この期間が義務教育。生徒たちは、自宅から通学バスに乗って、または家族に車で送り迎えをもらって通学している。</p>	<p>中国</p>  <p>中国の学校は9月入学の2学期制で、1～2月(春節期間)に約4週間の冬休み、7～8月に約7週間の夏休みがある。北京市の学校では、パソコン画面を写す電子黒板が使われている。</p>
<p>サウジアラビア</p>  <p>サウジアラビアでは多くの場合、小学校が6年間、中学校が3年間、高校が3年間が同じ敷地にある。そのため一口に学校と言っても幅広い年齢の生徒が在籍している。校舎が男子部と女子部に分かれてる。</p>	<p>ブラジル</p>  <p>ブラジルの教育制度は、基礎教育9年(小学校・中学校)、中等教育3年(高校)となっている。授業は平日の半日のみで、生徒によって午前の部(7時半～12時頃)と午後の部(13時半～18時頃)のいずれかを選択する。</p>

◎資料 大泉町の紹介(いかす段階)
群馬県 大泉町



群馬県 大泉町
外国人集住率16%の町。
ブラジル人が多く居住。

群馬県大泉町の課題

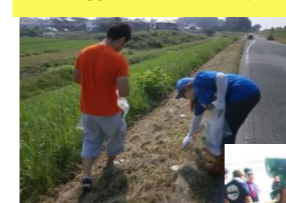
日本人とブラジル人の共生における課題の一つがごみの分別。
ブラジルでは、日本ほどごみの分別が細かくありません。

◎資料 国際交流の事例(いかす段階)

ブラジル人側の取り組み

- ・ブラジル人と大泉町の人たちによる清掃ボランティアの活動
- ・東日本大震災の時は、大泉町の人たちと協力して炊き出し。
- ・毎年、地元の中学生の職場体験を自分の経営しているレストランで実施。

清掃ボランティア活動



炊き出しボランティア活動



日本人側の取り組み

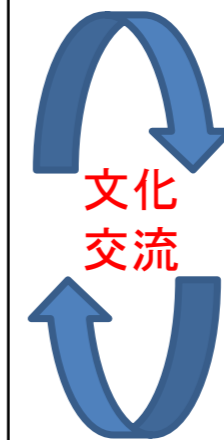
- ・ポルトガル語のごみ分別の表示や大泉町の情報誌(ガラッパ)の作成。
- ・文化の通訳制度。日本人が講師になり、ブラジル人に日本の文化を伝える制度。例「日本料理の基礎とごみの分別」などの講座を開催。



ガラッパ(大泉町の情報誌) ポルトガル語の分別表示



「日本料理の基礎とごみの分別」講座



文化の交流を通して、お互いの文化を理解し、尊重し合うことが大切だ。

本実践のポイント

- ・外国の学校生活から学習を始めることで、学習意欲が高まり、外国の生活への関心をもつことができる。
- ・児童の予想を短冊に書き、分類したことで調べる視点がはっきりした。
- ・4か国を4人で分担して調べ、紹介し合うジグソー学習が有効である。
- ・実際の外国人との共生事例を取り上げることで、文化の交流を通してお互いの文化を尊重し合うことの大切さについて考えることができる。